

第9回サクラ病理技術賞応募要領

- 対象 1. 病理標本作製技術の探求（研究論文）
2. 学術研究以外の幅広い活動・研究
- ① 日常業務での技術・知識の向上
 - ② 後進技師の育成・標本作製技術の伝承
 - ③ 地域医療への顕著な貢献

■対象者 病理学的検査、研究に携わる臨床検査技師または団体ならびに研究者

■応募 ・応募に関する書類は規定の用紙をご使用ください。
(サクラファインテックジャパンのホームページよりダウンロードしてご使用ください。)
<http://www.sakura-finetek.com/koubo9.html>

・必ず施設長の同意ならびに推薦者による推薦（後述）を得て下記に提出してください。
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-31-1 浜町センタービル
サクラファインテックジャパン株式会社 内
サクラ病理技術賞事務局 椎名博之 宛
TEL 03-5643-2630

■選考 サクラ病理技術賞選考機構から任命された選考委員（非公開）

■表彰 **サクラ病理技術賞**
染色全般、細胞診断法などに関わる諸技術の開発・改良など、病理技術の進歩に著しく貢献した人やグループを表彰します。

サクラ病理技術賞 奨励賞
全国、地方に関わらず地域医療や学生教育、技師の卒後教育に貢献するなど、論文数や論文内容による評価が難しい分野での貢献が顕著である人やグループを表彰します。

サクラ病理技術賞 新人賞（第9回より新設）
サクラ病理技術賞および奨励賞に準ずる研究や活動をおこなっている若手技師で、特に今後の活躍が期待できる人やグループを表彰します。

サクラ病理技術賞 松本賞
本賞としての公募は受け付けませんが、サクラ病理技術賞および奨励賞に準ずるものの中で特に画期的で、これからの新たな方向性を示すと考えられる研究や活動に対して表彰します。

*いずれの賞においても該当者がいない場合は選考しません。

■日程 ・募集開始 2016年12月1日（木）
・締切日 2017年2月28日（火）当日消印有効
・選考・発表 2017年5月末頃 ・授賞式 2017年9月頃（東京都内）

応募に際し、候補者の施設長の同意ならびに1名以上の推薦者による推薦を必要とします。施設長とは、医療機関、受託検査所、研究所など候補者が所属する機関の長（病院であれば病院長、大学学部であれば教室または講座の教授職など）を指します。また推薦者とは技師会などの地域責任者（各都道府県の病理細胞診班長、支部長、各都道府県会長もしくはそれらに準ずる方など）や日本病理学会および日本臨床細胞学会の理事もしくは評議員等ならびに、サクラ病理検査賞およびサクラ病理技術賞の受賞者を指します。詳細は、募集要綱の応募にあたっての注意事項をご確認ください。

●詳細は、お問い合わせください。

■問い合わせ先（事務局）
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-31-1 浜町センタービル
サクラファインテックジャパン株式会社内 サクラ病理技術賞事務局 椎名博之宛
TEL:03-5643-2630 FAX:03-5643-3383
E-mail: jimukyoku@sakura-finetek.com



募集期間
2016年12月1日 ~ 2017年2月28日

サクラ病理技術賞は皆様の実績を広く求めます。
病理技術者およびその団体、あるいは研究者の、学術研究、日常業務での技術・知識の向上、後進技師の育成（技術の伝承）、地域医療への顕著な貢献に対して褒賞致します。皆様のご応募をお待ちしています。

サクラ病理技術賞設立の趣旨

『サクラ病理技術賞』は、病理学的検査・技術に関するさまざまな活動を支援する独自の褒賞制度として2008年に創設されました。

医療変革の大きな波の中で、また病理検査の重要性の認識の高まりと共に現場での忙しさも加速度を増し、新たな探求・検索をすることが難しくなっていますが、技術者の知恵や工夫があつてこそ、技術・装置も次世代へ発展していくものと考えます。

サクラ病理技術賞の意義は、「病理標本作製技術を担う技師の方々へのモチベーションの一助」にあると考えております。研究論文は勿論のこと、日常業務での技術・知識の向上、後進技師の育成（技術の伝承）、地域医療への顕著な貢献というような活動も、その対象としております。将来に渡り病理標本作製技術を発展させることが最も重要な課題である限り、若い方々に標本作製の価値ある基礎技術を地道にしっかりと伝えていくようなことも、最先端の技術を使い病理標本作製に新しい道を切り開く探求と同様に価値のあることではないかと考えております。その思いが、この賞を始めた大きな理由でもあるからです。

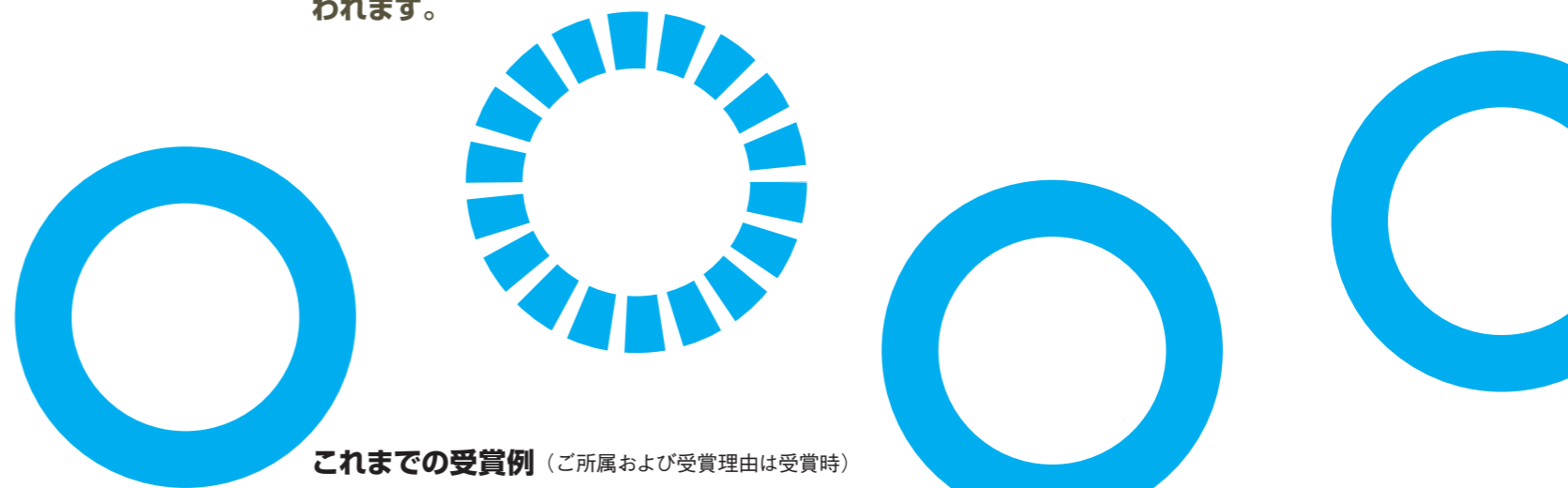
第8回までに25名、2団体を表彰させていただきましたが、受賞をきっかけに全国または各地域における講演や研修会でのワークショップでの講演活動など、活躍の場が拡がりを見せています。また受賞者間における新しいネットワークにより新たな活動へと発展し研究が深まりをみせており、まさに御同慶の至りです。

病理診断の認知度の高まりとともに、臨床や患者のニーズも高くなりつつある今、サクラファインテックジャパンは、この賞を通じて病理診断分野における技術の伝承と進展に貢献し、病理標本作製の発展的な未来に向けて挑戦を続けたいと考えています。

サクラファインテックジャパン株式会社
代表取締役会長兼社長 石塚 悟

第9回よりサクラ病理技術賞は、より広い視野での自薦による公募の受付となります。

選考は医師、技師、学識経験者など病理診断分野の第一人者数名によって構成される第三者機関（選考委員会）に委嘱されており、公正な選考が行われます。



これまでの受賞例（ご所属および受賞理由は受賞時）

■ サクラ病理技術賞 第1回受賞（2009年）

「病理診断における酵素抗体法の技術改良および病理検査室の環境整備」
川井健司氏（公益財団法人 実験動物中央研究所 病理病態研究部 分子形態研究室）

長年に渡る免疫組織化学（酵素抗体法）への病理診断への応用に関する数々の工夫、特にパラフィン切片における細胞増殖マーカーや癌遺伝子産物などの核内抗原に対する賦活化の検討は英文を含む数編の論文に掲載されるなど、新しい改良技術論として病理診断に貢献した。またその実験的検討能力が評価され、実験動物中央研究所の研究者としてそれまでの研究結果を動物実験モデルにおける病理学的解析へと展開、iPS細胞など再生医療におけるヒト細胞でのin vivo実験データを得ることに貢献したことが高く評価された。

■ サクラ病理技術賞 奨励賞 第7回受賞（2015年）

「免疫組織化学・分子生物学的技術の精度維持、向上における活動と
神奈川県および全国における病理技術の精度管理と後進技師の育成など」
芹澤昭彦氏（東海大学医学部付属病院 病理検査技術科）

病理診断に不可欠である免疫組織化学、ISH、電子顕微鏡技術などの研究に取り組み積極的に学会等で発表、その成果を専門書での技術解説や総説で世に広める一方、学会・研究会において所属する神奈川県臨床衛生検査技師会の病理研究班班長としての活動や日本臨床衛生検査技師会および日本臨床細胞学会における標準化や精度管理事業の中心的人物として病理技術の向上に貢献。またこれらの経験・成果を研修会講師や座長として伝えることで後進の育成につなげている。

■ サクラ病理技術賞 松本賞 第4回受賞（2012年）

「病理検査室・医療機関の労働安全衛生における指導教育・地域貢献及び研究活動」
清水秀樹氏（日本医科大学千葉北総病院 病理部）

有機溶剤業務従事者教育インストラクター、第1種衛生管理者、衛生工学衛生管理者等の労働安全衛生の専門的知識を習得し、病理検査室の作業環境改善指導、病理学会の専門委員としての全国各地での医療安全研修会等での講演活動、厚生労働省との協議や各種通達作成時のアドバイザーを務めるなど、安全衛生管理の第一人者としての活動は病理部門の域を超え広く医療安全対策に貢献している。とくに平成19年のホルムアルデヒドに関する法改正に際しては、ガイドラインの作成等、指導的役割を果たした。

